

2019年10月24日

一般社団法人 オンコロジー教育推進プロジェクト
理事長 福岡 正博 殿

所属機関・職 国立開発研究法人
国立国際医療研究センター病院
外科
レジデント (外科修練医)

研修者氏名 加藤 大貴

2019年度研究助成に係る 研修報告書の提出について

標記について、下記のとおり報告いたします。

記

研修課題	<u>MD Anderson Cancer Center Japanese Medical Exchange Program</u> <u>JME Program 2019</u>
研修期間	2019年 8月 22日～ 2019年 9月 30日
研修報告書	別紙のとおり

2019年10月24日

2019年度オンコロジー教育推進プロジェクト

研 修 報 告 書

研 修 課 題

MD Anderson Cancer Center Japanese Medical Exchange Program JME Program 2019

所属機関・職 国立開発研究法人 国立国際医療研究センター病院 外科レジデント

研修者氏名 加藤大貴

研修を経て創出した Mission and Vision

●Mission:

(日本語)

食道がんにより経口摂取困難な患者に対し、研究ベースの合併症の少ない手術で貢献する。

(英語)

Contribute to the esophageal cancer patients suffering from eating disabilities by surgical-driven research and complication-free surgery.

●Vision:

(日本語)

すべての消化管がん患者が生涯通して「食べる」ことができる世界

(英語)

Eat-well happily for all GI cancer patient.

I 目的・方法

Page. 4

[背景]

JME2019 は Team Science Oncology Workshop より基本的には医師、看護師、薬剤師それぞれ2名が選抜され、5週間の M.D. Anderson Cancer Center (以下 MDACC)で研修を行うというものである。私は 2019 年 1 月に開催された「The 2nd Team Science Oncology Workshop」に参加し、Team Building や Career Development の理論を学ぶとともに「Team Ambitious」での Group Work を通して実際の Team Building の課程を体験した。日本では医療専門職の教育としては取り入れられない、医学専門的でない技術として、とても興味深く深めたいと感じていた。

その後2月末に JTOP 事務局より JME2019 の参加のご連絡をいただき、5週間のアメリカ、ヒューストンでの研修に参加する運びとなった。

[目的]

JME Program の目的を明らかに提示しているものはないが、自身が理解している範囲での目的は以下のようになっている。

- MDACC の現地実習を通して、各医療従事者の役割や必要な Skill を理解するとともに、患者を中心としたチームがどのように形成され、機能しているかを学ぶ。
- 医療従事者として、リーダーシップや、コミュニケーションスキルといった、医療専門的な skill の大切さを学ぶとともに、それらを JME Program の中で実践していく。
- 医療従事者としてのキャリア形成の重要性を学ぶとともに、自身の Mission、Vision と SMART Goals を明確化していく。また Mentor-Mentee の関係性を体感することにより、キャリア形成での Mentorship の必要性を体感する。
- 医師、看護師、薬剤師のそれぞれ1名ずつからなる多職種チームで、最終プレゼンテーションを準備し実施することにより、MDACC で学んだチーム医療を発表するとともに、多職種でのチームビルディングの過程を体験する。
- JTOP Mentors の JTOP での役割を理解する。

[方法]

メンバーと生活

「The 2nd Team Science Oncology Workshop」から選抜された、医師、看護師、薬剤師、それぞれ2名ずつ、合計6名でProgramを行った。同施設からの参加はなく、各々が異なる施設からの参加であった。

6名はHouston Medical Centerにて同じApartmentでの生活を行った。4人のメンバーは2人部屋で共同生活を行った。

スケジュール

渡航時点で、JME Programの後半のスケジュールはほぼ決まっていなかった。Programが進行していく中で、自身の興味や、最終プレゼンテーションに関連した内容に応じて希望を伝えることが可能であり、適宜スケジュール調整をしていただいた。

私は、外科の現場でのチーム形成や実践を拝見させていただくことができた。

下に週間スケジュール（一部改変）の一例を記した。

WEEK NO.: 3 DATE: SEPTEMBER 9, 2019 THRU SEPTEMBER 13, 2019				
MONDAY 09/09/19	TUESDAY 09/10/19	WEDNESDAY 09/11/19	THURSDAY 09/12/19	FRIDAY 09/13/19
8:00 – 11:30 AM Group A Outpatient Breast: Pharmacy Contact: Neelam Location: Cool Beans Cafe 7:00 AM – 11:30 AM Group B Breast Surgical OR Contact: Medigel Teshome Location: Main Building, 5 th Floor, OR 12. Please check in with Access Desk first to get your scrubs. 12:00 PM – 1:00 PM LUNCH/BREAK 1:15 PM – 5:00 PM Group A Contact: Joyce Neumann Location: R8 GVHD clinic 1:15 PM – 5:00 PM Group B Contact: Location: 5:15 PM – 6:30 PM All Contact: Meet w/ Dr. Ueno Location: Breast Imaging Conference Room, CPB5.3374	9:00 – 12:00 PM Group A Dr. Kato and Kato only Breast Survivorship Clinic Contact: Nick Szweczyk Location: Cool Beans Cafe in Cancer Prevention Building. 8:00 – 11:30 AM Kie Nakamura Nursing Palliative Care Contact: Chanelle Clerc, RN Location: Park 2 nd floor (coffee cart) 8:00 AM – 11:30 AM Group B Contact: Dr. Naoto Ueno Location: Mays Clinic (Daisy) 12:00 PM – 1:00 PM LUNCH/BREAK 2 PM – 4 PM All Building self-awareness / handling difficult conversations Contact: Janis Yadiny Location: Breast Imaging Conference Room, CPB5.3260	8:00 – 11:30 AM Group A Breast Surgical OR Contact: Medigel Teshome Location: Mays Clinic 5 th Floor @ OR #4 8:00 AM – 11:30 AM Group B Outpatient Breast: Pharmacy Contact: Neelam Patel Location: Cool Beans Cafe 12:00 PM – 1:00 PM LUNCH/BREAK 1:15 PM – 5:00 PM Group A Contact: Location: 1:15 PM – 5:00 PM Group B Radiation Therapy Contact: Dr. Liao Location: Thoracic Center 9 th Floor, Rose Zone @ Main Hospital 1:00 PM – 2:30 PM Pharmacist ONLY Inpatient Pharmacy Tour Contact: Anna Wu/Jeff Bryan Location: The Park 2:00pm – 3:00pm (optional) All Pharmacy Grand Rounds: Navigating the Immunotherapy Highway with CD19 directed CAR T cells Location: Onstead Auditorium (Covey) 3:15 PM Group A Pharmacy Discussion Contact: Jeff Bryan Location: The Park Ueno-out Lim-out	8:30 – 11:30 AM Group A: Kie and Kato only ATC Pharmacy Mays Contact: Neelam Patel Location: meet at Cool Beans at 8:30 am 8:00 AM Dr. Kato only OR Contact: Dr. Walsh Location: Main Bldg, 5 th Floor 8:00 AM – 11:30 AM Group B Lymphoma/Leukemia Inpatient: Pharmacy Contact: Brandon and Jeff Location: Park @ 8:45 AM 12:45 PM – 2:45 pm All Teamwork - essential elements and your role in collaboration Contact: Janis Yadiny Location: Breast Imaging Conference Room, CPB5.3374 3pm-4pm Nursing Ethics Rounds Contact: Joyce Neumann Location: G18 conference room Ueno-out Nick Out Lim-out	Patient Reported Outcomes in the Clinical Setting Conference September 13-14, 2019 R.L. Clark Clinic, Flr 11 1515 Holcombe Blvd., Houston, TX 77030 Mentor/mentee meeting TBA Ueno-out Nick Out Lim-out

研修内容としては、職種、チームの見学（赤）、レクチャー（青）、手術室（黄色）、教育（緑）、学会など外部研修（黒）、Mentor-Mentee Meeting（水色）などがあり、5週間を通して、内容の濃い研修となった。

II 内容・実施経過

Page. 6

研修の内容は以下のようになった。

- ✓ Communal living at the apartment (South Main Building).
- ✓ Programs in M.D. Anderson Cancer Center
 - Introduction to the section
 - Breast Imaging Clinic
 - Apheresis Clinic (NP)
 - Radiology tour in MDA
 - CABI (The center for advanced biomedical imaging)
 - Radiation oncology (Esophageal cancer)
 - WOCN Rounds
 - OR
 - Breast surgery: 予防的乳房切除
 - Upper GI: Robot Assisted Distal Gastrectomy
 - Pancreatic: Pancreatoduodenectomy
 - Thoracic surgery: Rt. Lower lobectomy
 - Teams
 - Breast medical oncology
 - Dr. Ueno's Team
 - Dr. Lim's Team
 - Stem cell Transplant
 - Inpatient team
 - Surgical Oncology
 - Dr. Ikoma's Team
 - Dr. Teshome's Team
 - Breast Multi-team breast clinic
 - Conference
 - Breast cancer Conference
 - Esophageal cancer Board
 - Interaction with working individuals
 - Volunteer: Susan Rafte
 - Social Worker: Annabelle Bitter (Role of social worker)

- Nurse: Evidence based practice, Shared governance, CNL Program
- Pharmacist
 - @breast medical oncology
 - Discussion w/ Jeff, Branden
- APRN (Advanced Practice Registered Nurse)
 - @GVHD Clinic
- RN
 - @Stem cell transplant
- Lectures
 - Dr. Ueno: Career Development
 - Week1, 2, 3, 4, 5
 - Janis
 - Introduction to Leadership
 - Building Self-awareness/ Handling difficult conversations
 - Teamwork – essential elements and your role in collaboration
 - Creating your own strategic plan for your career/life
 - Dr. Theriault: Ethics meeting
 - Dr. Sahin: Pathology (Breast)
 - Ms. Shen: Statistical Tutorial
- Mentor-Mentee Meeting
 - ✓ Week1-5
- Final Presentation
 - Building Team, Planning
 - Presentation itself
- ✓ Outside M.D.Anderson
 - ACS
 - Conference (Patient Reported Outcomes in the Clinical Setting)
 - Houston Hospice

III 成果

Page. 8

MDACC での目的別に経過と成果を記す。

- MDACC の現地実習を通して、各医療従事者の役割や必要な Skill を理解するとともに、患者を中心としたチームがどのように形成され、機能しているかを学ぶ

MDACC では様々な職種を様々な部署で見学するとともに、多様なチームとの関わりを持つことができた。すべてのチームで共通していたことは、患者中心とする多職種チームの中でお互いを信頼し合い、情報共有と意見交換を行っていたことである。

これを可能にしていたのは各職種、細かくは各個人に求められる仕事の役割が明確化されていたことであり、自身の専門ではないことに関しては専門家に信頼と敬意を持って任せることであり、実践されていた。

例えば医師によって週に行う外来の回数や、業務上の臨床と研究の割合が契約上決まっていた。また、医師も施行可能であるが Mid-Level の看護師や薬剤師でも許可されている業務に関しては積極的に信頼をもって任せることにより、診療の効率化と、多職種の連携、さらにはその分を研究、教育にそそぎこむことによって、包括的な医療の底上げを可能にしている印象であった。

これには非医療専門職の存在も多く関与していた。

例えば Social worker は、日本のソーシャルワーカーの役割に加えて、医療以外における精神的サポートや、リビングウィル、金銭的な問題に関して積極的に介入し、患者の治療以外の問題を解決することにより、治療に専念することができるようになっている。

加えて、MDACC 全体としても複数年連続で世界一のがんセンターの称号をとり続ける術を感じることができた。

MDACC は組織としての Mission、Vision を共有することに成功しており、もともと 1990 年代から「Make Cancer History」というスローガンをロゴとともに表出することに成功していた。例えば、2010 年に発表されたロゴは、「Cancer」に赤い線を引くことにより、更に MDACC の Mission である「Eliminate Cancer」を視覚的にわかりやすく、共有することが可能であった。

一見不可能なこの Mission を全面的に押し出すことによって、患者には希望の言葉、従業員にとっては各々を鼓舞する言葉となり、「We Are M.D. Anderson」という言葉に現れるように、一つになって目標に進んでいる様子を身をもって感じ取ることができた。

- 医療従事者として、リーダーシップや、コミュニケーションスキルといった、医療専門的でない skill の大切さを学ぶとともに、それらを JME Program の中で実践していく。

今回の Program 内で、主に Janis の Lecture で、チーム形成におけるリーダーシップやコミュニケーションについて学んだ。

今回はこれに加えて、将来的に一緒に活動していく JME2019 全体として、そして Presentation の Group A としてチーム形成を実践していった。

印象に残っているのは Janis の最初の授業で Core Value をお互い共有する課題を出された時のことだが、Apartment に戻り、お互いの Core Value を発表し合い、かつ、その背景にあるそれぞれのメンバーの性格や思いを聞くことは、5 週間という期間の中で初めて 6 人がチームとして理解し合い、歩み寄ることができたきっかけだったのではないかと感じている。

プレゼンテーション作成過程でも、お互いの Core Value、MBTI、そして Mission and Vision を意識することによって、最終プレゼンテーションに望むことができた。

後から、Group A と Group B のチーム形成の仕方には大きな違いがあったことも新たな発見であったと同時に、さらに自己を知り、Leadership 能力を磨いていきたいと感じた。

- 医療従事者としてのキャリア形成の重要性を学ぶとともに、自身の Mission、Vision と SMART Goals を明確化していく。また Mentor-Mentee の関係性を体感することにより、キャリア形成での Mentorship の必要性を体感する。

Workshop ではなかなか理解ができなかったキャリア形成について、毎週 Dr. Ueno から講義を受け、IDP Sheet を完成させた。例年とは異なり、今回は試験的に Playing to Win という Strategy に基づき、「Impact」を Keyword として、Vision 形成を進めた。

私は今まで興味があることに惹かれるうちに、外科学への道に進むことを決めた。しかし、改めて Mission、Vision を言葉として表していくことは労力が必要であった。5 週間で過去を振り返り、原点に戻ること、自分が本当に労力を注ぎ込みたいことは何であるのかを考える過程を体感した。

加えて SMART Goals は、現時点で自分から近い Goal 設定を行うことで、Mission、Vision への道のりを再確認する役割だけでなく、各ポイントでの自身の振り返りに有用であることを学んだ。

Mentor-Mentee Meeting ではこれらについて、主に Career 形成についてと、MDACC の研修について、時間をとって一対一で対話する機会をくださった。私は Dr. Bora Lim と毎週、濃厚な 1 時間を過ごすことができ、また一つ一つの質問や悩みを真摯に受け止めてくださった Bora には感謝しきれないと感じている。加えて、これまであまり関与する機会がなかった Leadership を学ぶ中で、これまで自身の Self-Awareness について言葉にできず悩んでいた私に多くの時間をかけてくださった、Janis Yadiny 先生にも感謝する。

これらの Mentorship は生涯において必要であると 5 週間を通して身をもって感じた。

- 医師、看護師、薬剤師、それぞれ一名からなる多職種チームで、最終プレゼンテーションを準備し行うことにより、MDACC で学んだチーム医療を発表するとともに、多職種でのチームビルディングの過程を体験する。

最終週の水曜日に行われた Presentation では Group A、B ともに 25 分の時間を使い、腫瘍関連の問題に Approach するチームを形成し、Mission、Vision の作成から SMART Goals の設定までを行った。

私が所属していた Group A では日本の課題である高齢化と、それを逆に高齢化社会先進国として強みにしていけるように、「高齢者のがん治療での適切な決定」をテーマにプレゼンテーションを行った。

準備期間には各々が違う Mission、Vision を持っている中、また違う背景や職種であることの中から、意見を積極的に交換し尊重し合うことで、時間をかけてトピックやプレゼンテーションの作成を行っていった。

Mission and Vision:

Our Mission

To create an environment where cancer patients in Japan could die in dignity.

THE UNIVERSITY OF TEXAS
MDAnderson
Cancer Center
Making Cancer History

Apollo

Our Vision

All cancer patients live with their values and their own right.

THE UNIVERSITY OF TEXAS
MDAnderson
Cancer Center
Making Cancer History

Apollo

Goals:

Break Down Goals

- Sharing patient information from the perspective of each specialty with respect and responsibility
- Find out their life in line with value and advocacy with resources around them.
- Clarify and narrow down specialty and role of co-med in Japan, create new specialty where not being covered
- Patients can understand their situation

THE UNIVERSITY OF TEXAS
MDAnderson
Cancer Center
Making Cancer History

Apollo

SMART Goals

Specific

Measurable

Attainable

Relevant

Time Based

S

M

A

R

T

A seminar will be held for 50 doctors, nurses, and pharmacists to promote understanding of each their professional role in 2020.

A questionnaire survey on the role of experts is conducted before and after the seminar.

THE UNIVERSITY OF TEXAS
MDAnderson
Cancer Center
Making Cancer History

Apollo

IV 今後の課題

Page. 11

[チーム医療]

研修を通して、MDACC の職員の役割の明確化、それによるプロフェッショナルの意識の高さとお互いの尊重、加えて、それによって行えるコミュニケーションを学んだ。

誰が医療を行っても Standardized された治療が受けられるということを徹底しており、マニュアルの多さ、細かさ等はそれを物語っているようであった。

しかし、アメリカの全ての医療機関が、この医療を行っているというわけではなく、世界一のがんセンターであるからこそ行うことができていると考えている。

文化や人種、保険制度等の体制の違いもあり、日本で MDACC を疑似するということは難しく、かつ、適切であるかはわからない。しかし、「すべては患者のために、治療だけではなく患者を取り巻く環境なども含めた包括的な医療を行う」といった、根本的な共通点は多く、私は医療を通じて活動に尽力していきたい。

[Leadership/ Career Development]

Dr. Ueno や Janis の講義や Mentor-Mentee Relation から医療従事者における医療専門的でない Skill を主に学ばせていただき、5 週間を通して、実践、経験していくことができた。Workshop では理解しきれなかったことが、少しずつ形になり、経験することで徐々に定着していったのを身をもって感じる事ができた。

しかし、これは引き続きの訓練を要し、継続して更新していくことが必要である。

生涯を通して、Career Development の概念の下 IDP Sheet を更新していくと同時に、チーム形成における Leadership については日々鍛錬していくことを誓った。

V 謝辞

Page. 12

今回の JME2019 にあたり、ご尽力をいただいた一般社団法人オンコロジー教育推進プロジェクト、Japan Team Oncology Program (J-TOP) の皆様、また多くの団体や個人の皆様よりいただいたご寄付について、心から感謝申し上げます。

まずは快く JME Program に送り出してくださった、NCGM 国立国際医療研究センター病院 外科の職場の方々に感謝申し上げます。

出発前の準備から帰国後までプログラムの調整をいただいた J-TOP 事務局の笛木様、Program Coordinator の Marcy Sanchez 様をはじめ、円滑な Program のために調整いただいたすべての方々に感謝申し上げます。

現地では J-TOP Founder の上野直人医師や Chair の Joyce Neumann 先生、Mentor となってくださった Bora Lim 医師、Janis Yadiny 先生はじめ、J-TOP Mentor の方々や MDACC の日本医師の方々すべてに感謝御礼申し上げます。

最後に、切磋琢磨し合いながらともに過ごした JME2019 のメンバーに敬意を表すとともに感謝申し上げます。

今回の研修は、多くの方々のご支援、ご指導なくして達成することができなかったと感じております。今後、日本でのがん診療の発展に貢献できる人材になるべく鍛錬していくと同時に、J-TOP が発展し、JME Program にひとりでも多く参加できる様に貢献できればと考えております。

今後ともご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。